

第 4 回県都デザイン懇話会 議事要旨

日 時 平成 24 年 11 月 26 日 (月) 16:00~17:20

場 所 福井市役所別館 5 階 大講堂

議 題 : 県都デザイン戦略 骨子について

早期に事業化を検討すべき項目について

出席委員 : 西村座長、国吉委員、勝木委員、開発委員、下川委員、吉田委員、竹内委員

委員からの主な発言内容

(早期に事業化を検討する項目について)

- ・ 県民会館跡地で何かをやろうとすれば、そこでは色々な声や意見を聞いた方が良い。
- ・ 中央公園は、整備はするが暫定のものだということと、将来的にはもっと議論を深めていって市役所も含めてどうするかという議論をすることを、並行して知らされていることが必要。ガチガチのものを作るというよりも後で軌道修正できるようなものというイメージ。
- ・ 食の拠点は福井にとっては重要なポイントだと思うが、駅周辺には場所がないのではないかな。小さなものをやるのならやらない方が良い。
- ・ 旧町名を考えるときは、歴史を押さえ、元の範囲はここだがその周辺も含めて浜町としようかというステップを踏み、歴史を改ざんすることにつながらないように注意しないといけない。
- ・ 東西軸の緑は駅を挟んでつながるイメージになる。中央大通りの緑の軸と、東大通りの緑の軸の結節点としての駅で、緑の連続性を持たせる仕掛けをしっかりと考えなくてはならない。大きな軸線の描き方と、細かいレベルの実際の計画をどう調整させていくのが重要。
- ・ 足羽山、足羽川について自然環境が整備される、自然の中で学習などができるといった、まさしくワークショップで出てきたことが反映されていてよい。
- ・ 足羽山に至るまでと足羽山自体の動線が複雑で、枝分かれした道のためどこに何がつながっているのかよく分からない。動線も整備していくようなイメージを持つと良い。
- ・ 足羽川への植栽による水辺の整備、活用と書いてあるが、キーワードとして生態系、親水ということをしっかり明示したほうが良い。
- ・ 単なる緑ではなく、生物の多様性や地域の植生に配慮したものにすべき。

(県都デザイン戦略の骨子について)

- ・ 市民が継続的に参加するまちづくりのためには、夢や期待感の持てる大きな話があり、その中に細かな事業があるという流れがわかる必要がある。
- ・ 歴史が重層的に重なっているところを説明できると、非常に面白く、物語性が出てくる。
- ・ 福井城の今残っている遺跡そのものは全国に誇れる規模ではない。しかし、福井城址の史料からは、68万石の規模を明治維新になってもずっと維持しており、これは全国に誇れ

ること。

- ・門の位置等を示す方策を考えると、城郭をイメージできる大きなものができるのではないかな。
- ・門などの表現として、サインなどでもあるとよい。
- ・ものが新しくなって、自己満足をするだけではいけない。一般の方々に足を運んで利用してもらうための視点が必要。およそ県外の方が3割、地元の方が7割くらいで、整備した場所を使っていかなければいけない。そのために交通体系を考えて、バスなどで人が動ける状況、人が簡単にまちに集まれて、ここで憩うという状況を作る事が大事。
- ・県内、県外から車で来られる方々のために、駐車場もある程度準備をしておくべき。

(マネジメントの体制、市民との協働について)

- ・事業が個別ばらばらにならないように、例えば総合デザインの推進会議が、市民の意見を取り込みつつ、事業をつないでいく仕組みがあるべき。
- ・項目それぞれがばらばらにならないようなデザインマネジメント、全体の調整をする体制が重要である。
- ・市民と協働する仕組みを作り上げていくことを盛り込んだ方がよい。
- ・プロジェクトニュースを随時出す、独自のホームページを持つ、発表体制を県と市で合同で持つなど、プロジェクトの進捗状況や、プロジェクトが始まったことがその都度発信される仕組みを持つべき。分かりやすく、市民が一体感を持てる進め方になる。
- ・利用する市民にとってのあり方を議論し、全然知らないところで決まってしまうと愛着もないものがないようにすべき。

(ビジョンの継続性について)

- ・長期的なビジョンであるからこそ、継続性が問われるが、継続性を担保する方法はないか。
- ・例えば城址公園というものが色んな所で議論されて、市民に定着していくと、後戻りできなくなる。細部は変わっても大元は変わらないように、根を張る努力をすることはできる。
- ・例えば県都ビジョン全体イメージを骨格として位置付けて、その時代に合うように言い方は変えても、骨組みは変えないことを継続することが重要で、やり方によってはできると思う。

(その他)

- ・民間側の活力を信じて良い。細かいところは民間の方たちでもっと自由度を膨らませていって、走りながら新しいものを生み出していくという感覚でやってもよい。
- ・民間から投資を呼び込むサポートシステムを作り、民間にも仕掛けて動きを生み出せるとよい。